

平成29年度 授業改善推進プラン

【学校名 立川市立南砂小学校】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

・基礎・基本をしっかりと身に付け、得た知識を的確に活用できる力を育てる授業

2 児童・生徒の現状

◆「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校5年生）

学習に関する意識調査の分析	学力向上を図るための調査の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・児童は概ね授業を分かりやすいと捉え、学習したことが身に付いていると感じている。 ・算数の習熟度別指導や、問題解決型の授業の進め方にも肯定的な意識をもち、学習したことが普段の生活に役立っていると感じている児童が多い。 ・まだ実際に行動に移せていなくとも、地域や社会に貢献したいと考えている児童が多い。規則尊重の精神や基本的な生活習慣が身に付いており、家庭の教育力の高さがうかがえる。 ・家庭学習の習慣付けと、適切な時間の確保が必要なことを、保護者に伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する意欲や関心が高い。粘り強く学習に取り組むことができる。 ・文章から読み取ることには課題があるが、社会などの資料(表やグラフ)の読み取りはできる。 ・複数の資料を関連付けて考えたり、そこから推論したりすることに課題がある。 ・漢字(熟語)の書き取りや四則計算など基礎・基本の学力の定着が不十分である。 ・抽象的な問題において、文字を使って立式することに課題がある。 ・理科の電気の理解が不十分である。

◆その他の資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリル ・第6学年全国学力・学習状況調査 ・東京都統一体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果分析から、量と測定の領域で正答率が低く、課題がある。 ・文章や資料からの読み取りや、図形の性質や科学的事象などの知識の定着に課題がある。 ・体力テストの結果分析から運動を楽しむための体力(俊敏性や持久力)が十分でない児童がいる。

3 児童の学力・学習状況等の課題（上記2の分析を踏まえて）

- ・知識の定着が十分でない児童が少なからず見られる。
- ・資料の関連付けや推論することが苦手な児童がいる。

4 授業改善策（上記1～3の記載事項を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
基礎・基本の定着	立川スタンダードを基に、算数及び体育の学習についての南砂スタンダードを確立し、児童の基礎・基本の定着を図れるような授業を展開する。
思考力の向上	様々な教科で、個人の考えを集団の中で活用できる場(協働学習の場)を設定した授業を展開する。
俊敏性や持久力の向上	持久走旬間やなわとび旬間を設定し、体力の向上を目指す。
家庭学習の徹底	学習したことを補充したり、活用したりできるような課題を家庭学習として提示する。